



新時代へ
躍り出そう

Sustainable AI 藍 Land
TOKUSHIMA

打樋川水系河川整備計画(原案)について

令和8年5月
徳島県 河川政策課

目 次

1

打樋川流域の概要と変遷 P.3

・ 流域の概要 ・ 既往洪水 ・ 治水事業の沿革、雨の状況 ・ 水質、自然環境

2

打樋川水系河川整備計画の策定 P.14

・ 河川整備基本方針の概要 ・ 整備の目標 ・ 整備の実施 ・ 河川整備計画のポイント

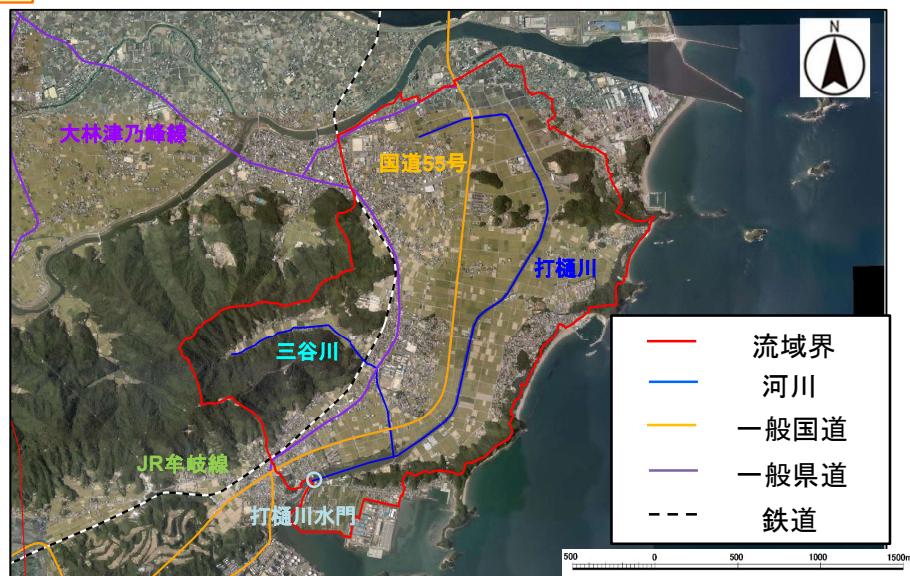
1. 打樋川流域の概要と変遷

1. 流域及び河川の概要

打樋川水系

- 打樋川は、県管理延長約7.5km、流域面積約14.9km²の二級河川であり、その流域は阿南市のみで構成されている。
- 支川三谷川は、県管理延長約1.38kmの二級河川である。
- 流域内には約13,000人が生活し、流域内付近には、製紙会社、化工場などの製造業に分類される工業地帯が点在している。
- 流域の約7割は平地部となっており、下流域の低平地に人口・資産が集中している。
- 打樋川流域の年平均降水量は、1,500mm～2,000mmとなっている。

流域図



産業経済

- ・ 発光ダイオード等、各分野の国内外でトップシェアを誇る企業の工場が立地

主な製品	特徴
発光ダイオード、蛍光体等	青色LED(高出力分野)、半導体レーザー、電池材料(リチウムイオン電池正極材料)世界シェアトップクラス
RO紙(逆浸透膜支持体紙)	世界一の生産量
木材用プレス機械	国内一の生産量
大型ウレタン発泡用プレス機械	国内一の生産量

発光ダイオード
世界シェア
トップクラス

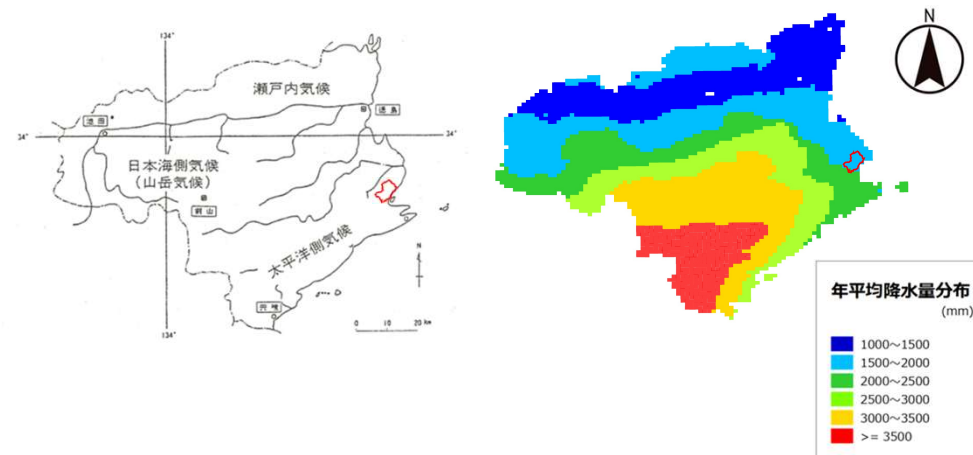


流域の諸元

- ・ 流域面積：約14.9km²
- ・ 県管理延長：打樋川：約7.5km
三谷川：約1.38km
- ・ 流域内人口：約13,000人（国勢調査、2020年）
- ・ 流域内世帯：約5,400世帯（国勢調査、2020年）
- ・ 流域市町村：阿南市

降雨特性

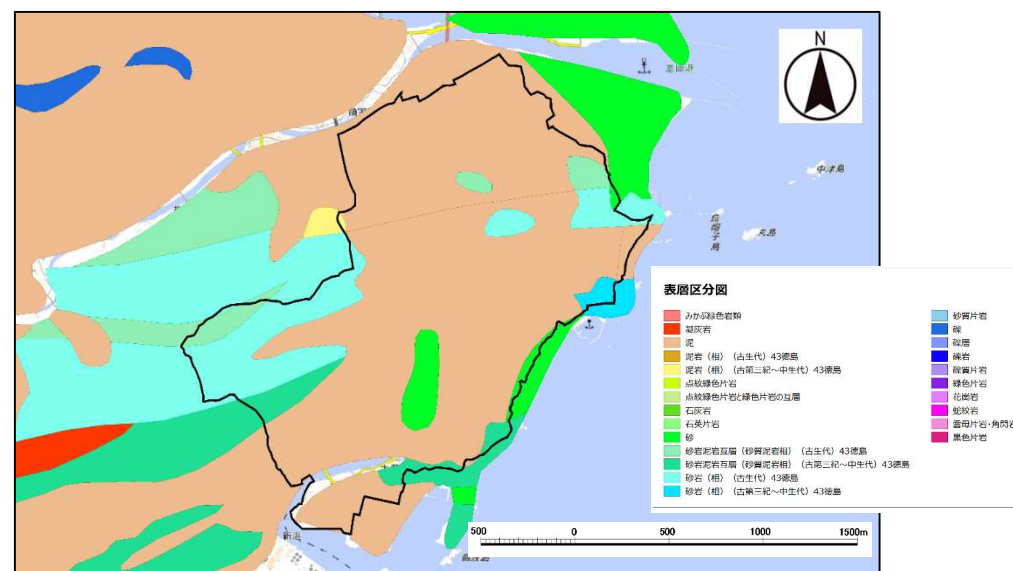
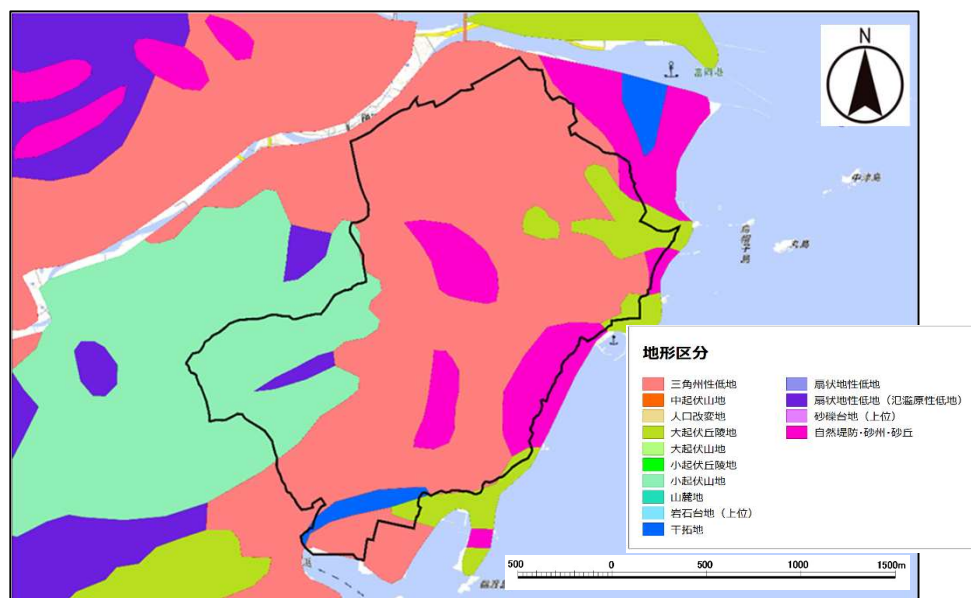
- ・ 気候区分上では太平洋側気候に属し、年平均降水量分布が1,500mm～2,000mmと多雨地域で台風や梅雨、秋雨の季節には降水量が多くなる。



出典：「徳島の気象100年」
(徳島地方気象台・日本気象協会編集、1991)

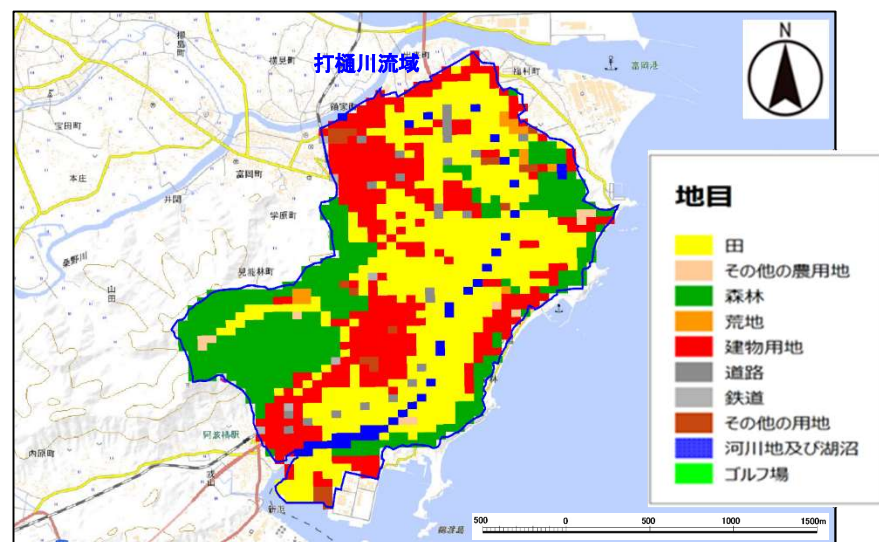
出典：メッシュ平年値2022、気象庁2022

地形区分と地質区分



- 打樋川流域内における土地利用の約4割が水田となっている。
- 打樋川の上流域には徳島県南部の中心的役割を担う阿南市が位置し、流域の中心を国道55号が通っており、そこに沿ってJR牟岐線が通っている。また、他の道路の起終点となる主要な道路である、一般県道大林津乃峰線（旧国道55号）が通っている。
- 流域内の産業構造は、第三次産業の就業者割合が半数以上を占めており、第三次産業が盛んになっている。次いで、第二次産業、第一次産業となっている。

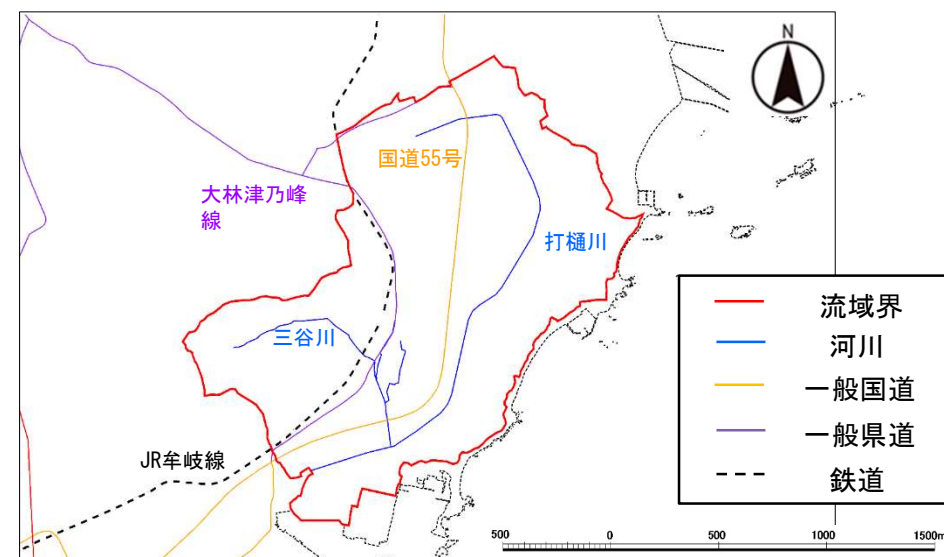
土地利用状況



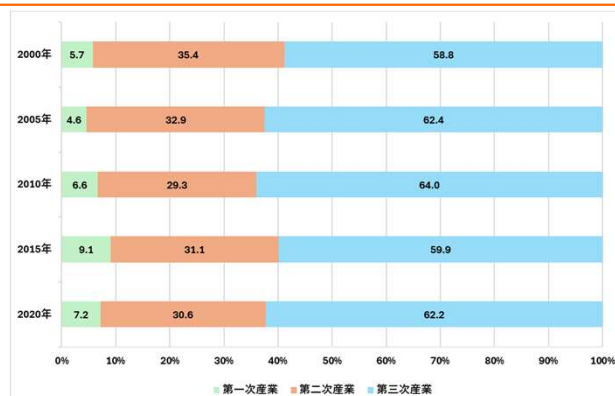
	総面積	宅地	水田	畑・荒地	山地	水面
打樋川流域	14.9km ²	4.2km ² (28.5%)	6.1km ² (41.6%)	0.3km ² (1.8%)	3.9km ² (25.3%)	0.4km ² (2.9%)

出典：国土数値情報 土地利用細分メッシュデータ（2021）

交通網



産業構造



- 第一次産業：「農林、林業」「漁業」
- 第二次産業：「鉱業、砕石業、砂利採取業」「建設業」「製造業」
- 第三次産業：「電気・ガス・熱供給・水道業」「情報通信業」
「運輸業、郵送業」「卸売業、小売業」「金融、保険業」
「不動産業、物品賃貸業」「学術研究、専門・技術サービス業」
「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」
「教育、学習支援業」「医療、福祉」「総合サービス業」
「サービス業（他に分類されないもの）、公務（他に分類されるものを除く）」
「分類不能の産業」

出典：国勢調査（2000年、2005年、2010年、2015年、2020年）

- 打樋川流域内の河口部にある大渦や答島付近はかつて答島村と呼ばれ、江戸時代前半に塩田が開かれ、阿波塩の約2割を生産していた。
- 多くの洪水や地盤沈下による被害を防ぐために、圃場整備や地盤沈下対策事業、打樋川の河川改修事業などの総合的な整備のもと、緑豊かな田園地帯へ変貌を成し遂げている。
- 数多くの神社が点在し、阿南市天然記念物の王子山古墳群、剣塚古墳群や、徳島県指定の文化財である阿波焼鳳凰風炉などの文化財も点在している。
- 一帯が室戸阿南海岸国定公園に指定されている津乃峰山では、頂上に建つ津峰神社をはじめ、津乃峰スカイラインからの景観や桜を眺めることができる、観光地である。

文化財と津乃峰山

○ 津乃峰山



津乃峰山からの眺望（出典：阿南市観光協会）



津乃峰スカイライン：桜の季節（出典：阿南市観光協会）



○ 天然記念物



○ 天然記念物

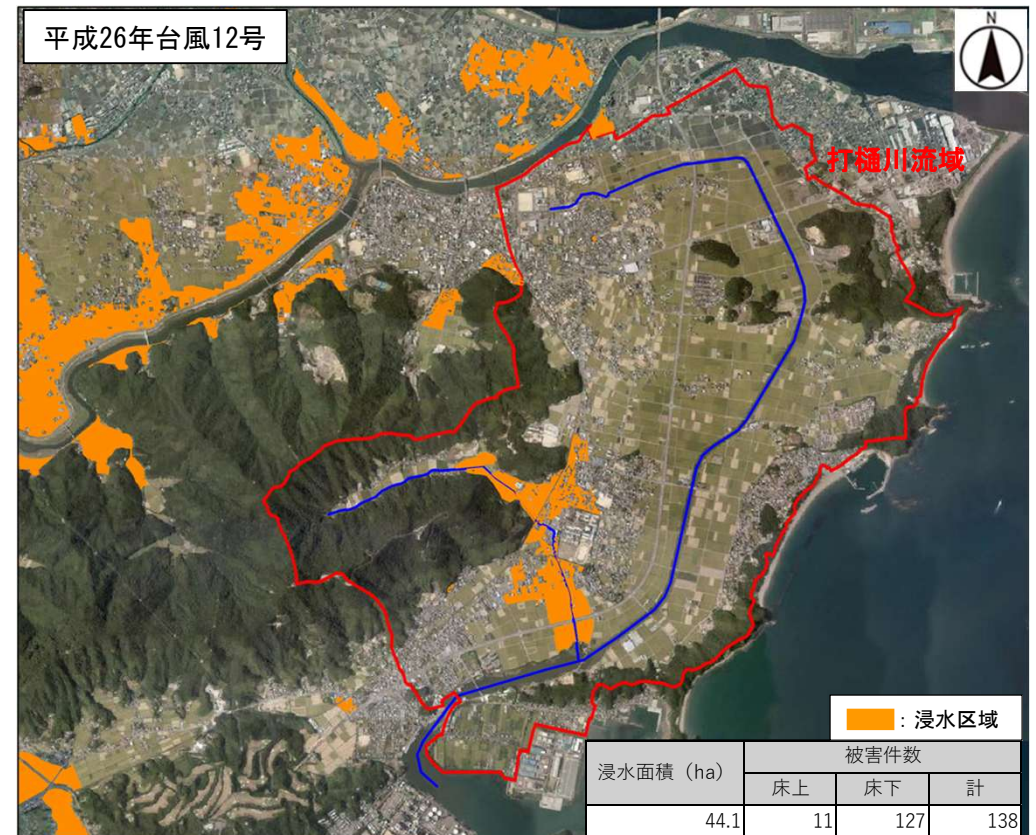


○ 打樋川流域は、昭和21年南海地震による地盤沈下により、地盤高が平均潮位（T.P. +0.2）より低い地帯が大半を占めているため、通常の排水も潮位の影響を受ける状況にあり、洪水のたびに浸水被害を受けている。

※平均潮位は阿波由紀で観測した過去5年（2021年～2025年）の平均値

主な洪水被害

洪水年月日	降雨要因	河川名	水害区域 面積 (ha)	被害棟数				備考
				全壊流出	半壊・床上	床下	計	
1959 (S09) 年 09月	室戸台風	那賀郡 (現在の阿南市を含む)	—	699	806	448	1953	徳島県 自然災害誌
1950 (S25) 年 09月	台風ジェーン (28号)	那賀郡 (現在の阿南市を含む)	—	101	2101	3825	6027	
1960 (S35) 年 05月	チリ地震津波	大湊・津乃峰	—	—	—	300	300	
1961 (S36) 年 09月	第二室戸台風	阿南市	—	13	739	2702	3454	水害統計
1965 (S40) 年 09月	台風23. 24号	打樋川	648. 00	0	46	153	199	
1969 (S44) 年 06月	梅雨前線豪雨	打樋川	30. 00	0	1	16	17	
1972 (S47) 年 06月	断続した豪雨並びに台風 6. 7号及び台風9号	打樋川	620. 00	0	0	253	253	
1972 (S47) 年 09月	豪雨及び台風第20号	打樋川	75. 00	0	15	549	564	
1974 (S49) 年 08月	台風14. 16. 18号	長浜地区	6. 00	0	0	5	5	
1976 (S51) 年 09月	台風第17号と豪雨	打樋川志んじやく地区 長浜川 西池田地区	195. 00	0	24	64	88	
1979 (S54) 年 08月	台風12号と豪雨	七見地区 青木地区 軸崎川 三 谷川	79. 40	0	0	0	0	
1979 (S54) 年 09月	台風16号と豪雨	長浜地区	5. 70	0	0	13	13	
1979 (S54) 年 10月	台風20号	三谷川他	19. 00	0	0	0	0	
1988 (S63) 年 06月	豪雨 (梅雨)	打樋川三谷川	90. 65	0	0	0	0	
1990 (H02) 年 09月	台風19号	打樋川大湊町地区 三谷川 津 乃峰町地区	264. 37	0	2	12	14	
1997 (H09) 年 09月	豪雨	打樋川	5. 70	0	0	0	0	
1998 (H10) 年 05月	豪雨	打樋川無名河川	489. 20	0	14	120	134	
1998 (H10) 年 09月	台風6. 7号	打樋川無名河川	1. 38	0	0	32	32	
1999 (H11) 年 06月	豪雨	津乃峰町	0. 30	0	0	9	9	
2000 (H12) 年 09月	台風14号	富岡町	1. 00	0	0	13	13	
2001 (H13) 年 10月	豪雨	三谷川他	0. 39	0	0	29	29	
2003 (H15) 年 08月	台風10号	無名河川	0. 08	0	1	1	2	
2004 (H16) 年 10月	台風23号	打樋川	0. 16	0	0	3	3	
2010 (H22) 年 04月	—	三谷川	家屋浸水を含む浸水被害が発生					三谷川流域住民から の聞き取り等
2014 (H26) 年 08月	台風12号	打樋川	44. 10	0	12	226	238	水害統計 三谷川: 125mm/2h



※徳島県による洪水痕跡調査をもとに作成

2. 現状と課題

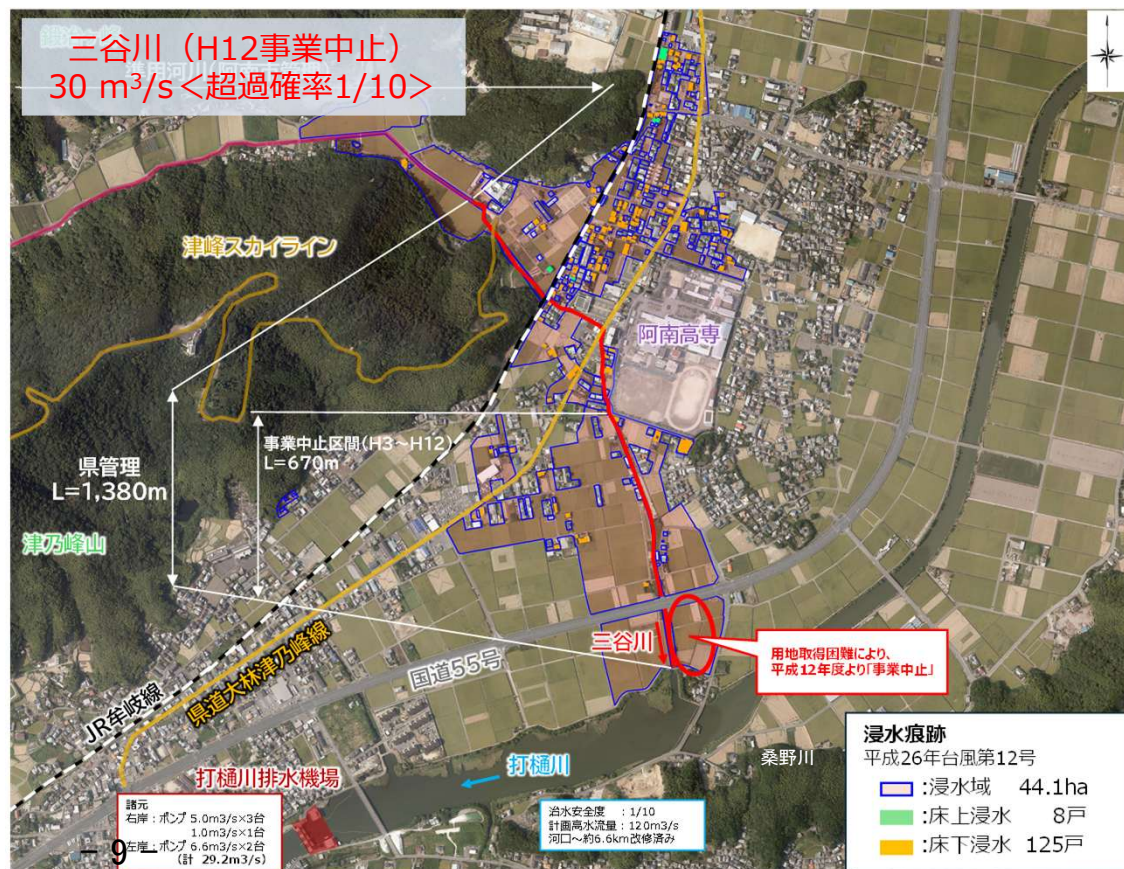
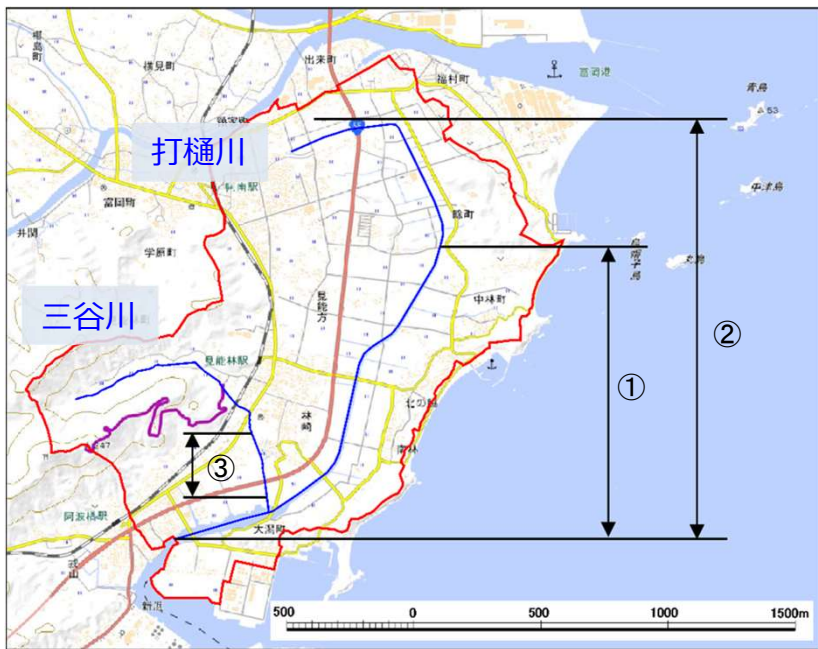
治水事業の沿革

打樋川水系

- 打樋川は、昭和49年に事業着手し、平成18年に事業完了
○三谷川は、平成3年に事業着手したが、下流付近で用地取得困難となり、平成12年に事業中止

打樋川・三谷川の改修

時期	河川名	治水計画
昭和49年	打樋川	高潮対策事業
昭和52年	打樋川	工事実施計画
平成元年	打樋川	小規模河川改修事業 ①
平成3年	支川 三谷川	河川局部改良事業 ③
平成8年	打樋川	中小河川改修事業 ②
平成10年	打樋川	広域基幹河川改修事業 ②
平成12年	支川 三谷川	事業中止（用地取得困難）
平成16年4月	打樋川水系	河川整備基本方針
平成17年	打樋川	総合流域防災事業 ②
平成18年	打樋川	事業完了



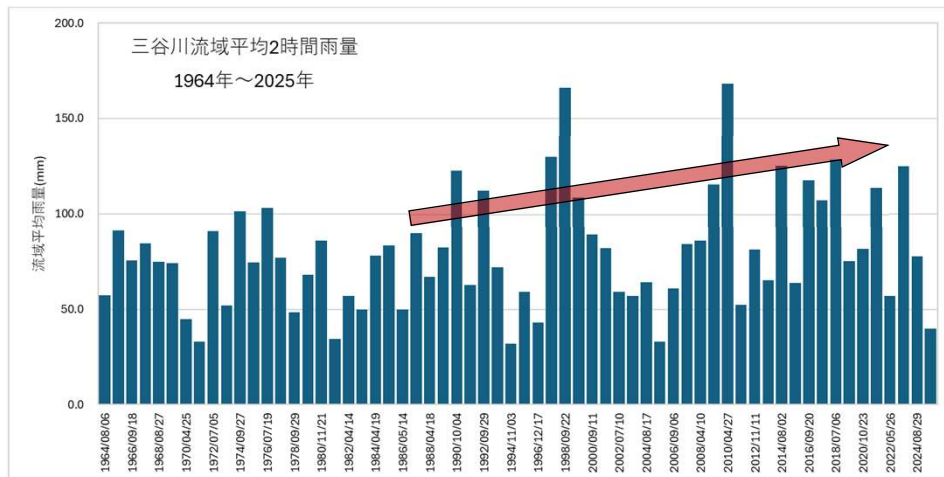
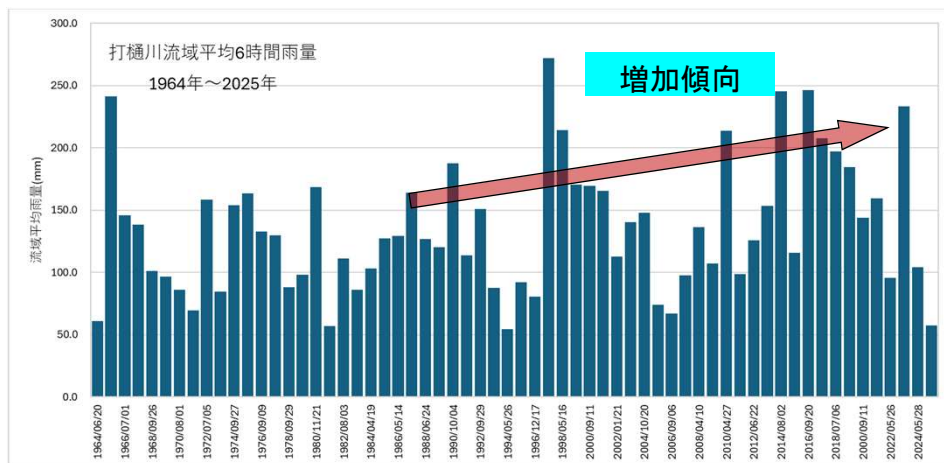
2. 現状と課題 近年の降雨量・流量の状況

打樋川水系

- 打樋川流域は、太平洋気候で降雨量の多い地域にある。
- 台風や梅雨、秋雨により降雨量が増加し、洪水の発生による浸水被害が多く記録されている。
- 打樋川の流量は、平成26年台風12・11号の降雨により、1/10確率流量である120m³/sを超過。
- 三谷川の流量は、平成10年、22年、26年、28年の降雨によって、1/10確率流量である30m³/sを超過。

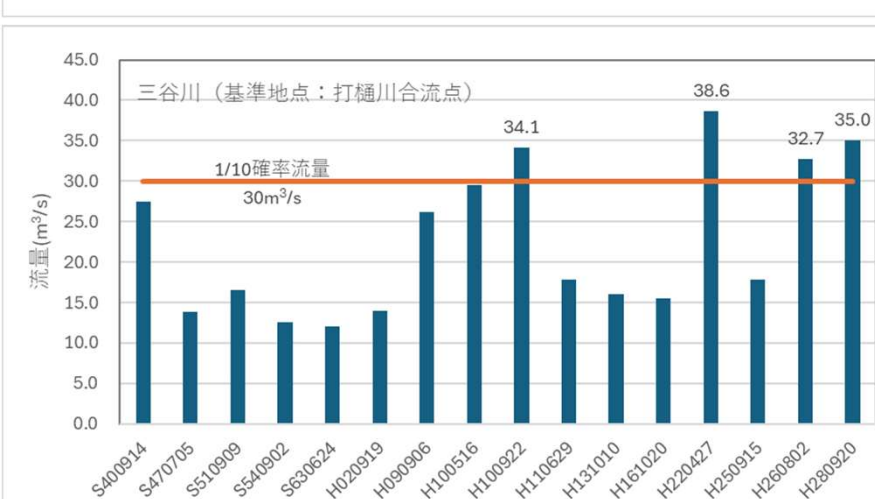
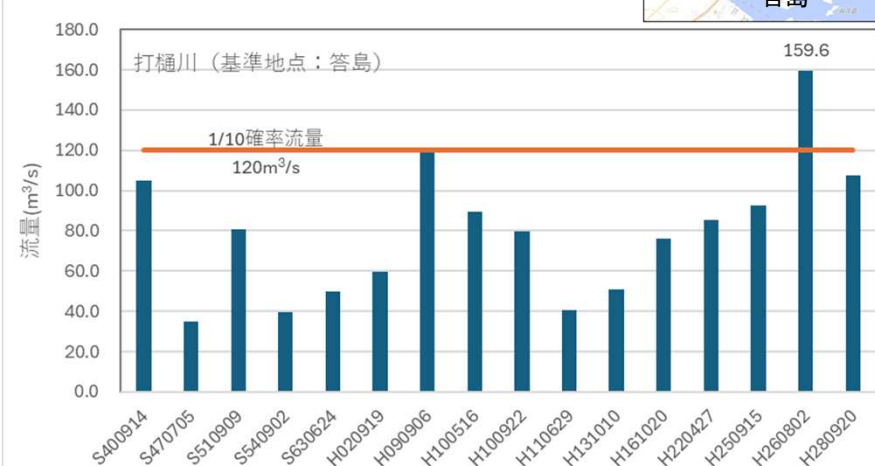


流域平均降雨量



※1964年～1992年富岡（国）観測所の雨量、
1993年～2008年富岡（国）観測所、阿南庁舎（県）の流域平均雨量、
2009年～2010年：富岡（国）観測所、阿南庁舎（県）観測所、津乃峰（県）観測所

主要洪水のピーク流量



※打樋川の基準点：答島で、流域平均6時間雨量の上位5位と水害記録から抽出した
主要洪水16洪水の雨量を用いて、流出計算で算出

○ 打樋川では潮止樋門から上流までが水質汚濁に係る環境基準類型での河川C類型に指定され、環境基準点である天神橋において水質調査を実施（年12回）している。

水質調査結果（天神橋）



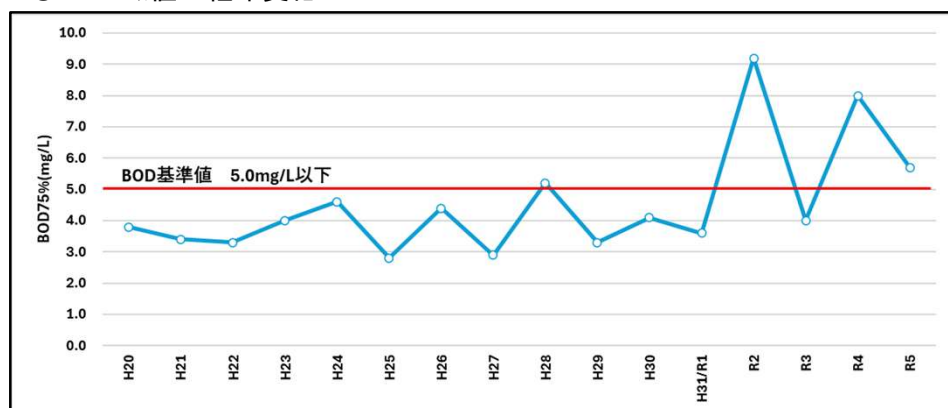
○ 河川の水質汚濁に係る環境基準

類型	基準値			
	水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)
河川C	6.5以上 8.5以下	5mg/L以下	50mg/L以下	5mg/L以上

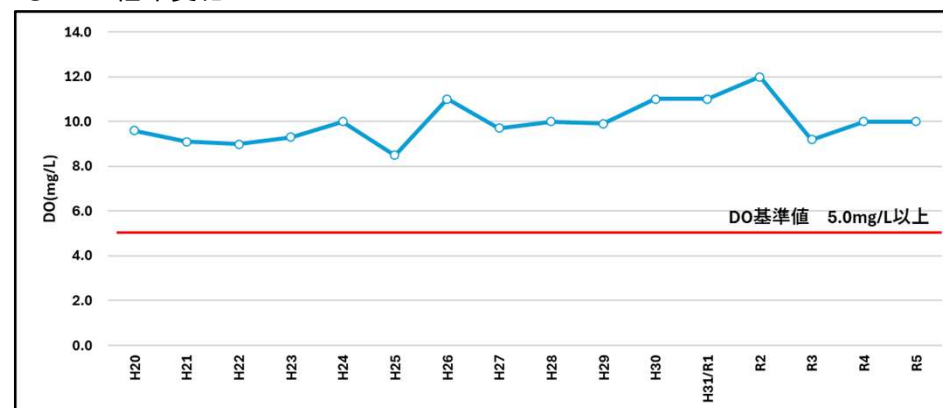
○ pHの経年変化



○ BOD75%値の経年変化



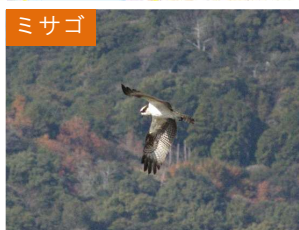
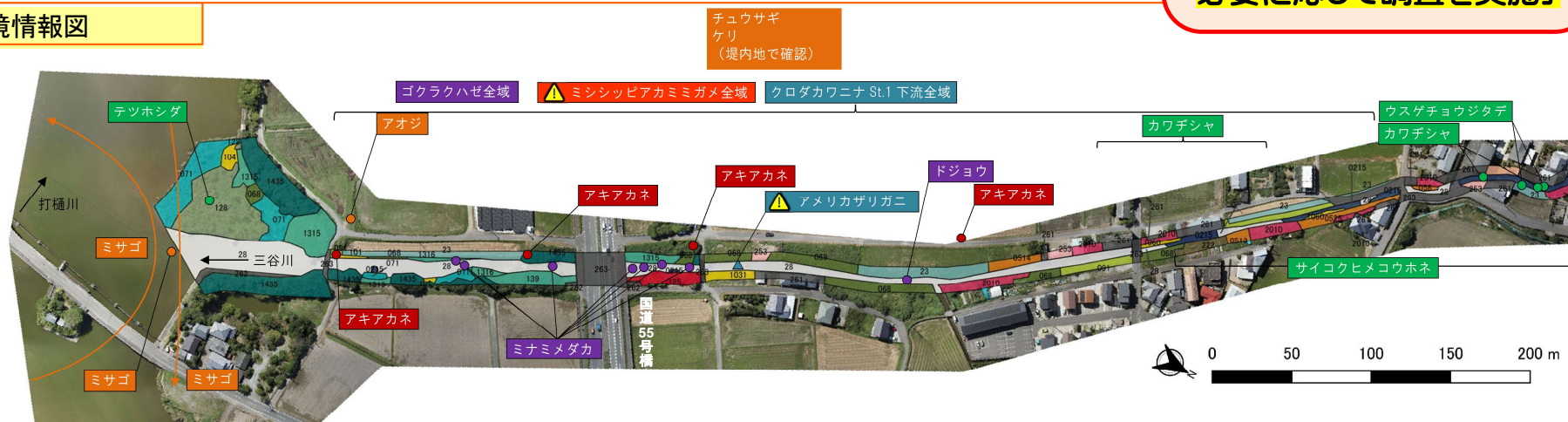
○ DOの経年変化



- 三谷川河口には水際や地下水位の高い過湿環境に発達するジャヤナギ-アカメヤナギ群集が広域的にみられ、洪水等の攪乱頻度が低下した後背地にはムクノキ-エノキ群落が見られる。これらの樹冠は鳥類のねぐらや営巣場所として利用されていると考えられる。また、開放水面が広がり、ミサゴなど魚食性鳥類の採餌環境が形成されている。
- 河道内には、ヨシ群落、オギ群落、ヒメガマ群落など河川下流域に典型的にみられる抽水植物群落広がるほか、宅地間を流れる水深の浅い流れの緩やかな水路には、重要種であるサイコクヒメコウホネ、ウスゲチョウジタデなどが群生している。
- 国道55号橋上下流の植生下にはミナミメダカ、農業用水が流入する箇所にはドジョウが生息している。
- 堤内地の水田や水際には、アキアカネ、チュウサギ、ケリなど、藪や草地にはアオジが確認されている。

「河川環境保全のため、必要に応じて調査を実施」

三谷川下流の環境情報図



色	基本分類	群落名	表示コード
青	浮葉植物群落	サイコクヒメコウホネ群落	0215
黄	一年生草本群落	ミソソバ群落	058
黄		オオイヌタテオオクサキビ群落	0510
黄		コセンダングサ群落	0513
黄		メシバエ/コログサ群落	0514
黄	多年生広葉草本群落	カナムグラ群落	0525
黄		ヨモギ-モドハギ群落	064
黄		カラムシ群落	066
黄		セイタカアワダチソウ群落	068
黄		カセササ-オオバコ群落	0614
黄	単子葉草本群落	ヨシ群落	071
黄	単子葉草本群落	オギ群落	091
黄	単子葉草本群落	ウキヤガラ-マコモ群落	101
黄	単子葉草本群落	ヒメガマ群落	104
黄	単子葉草本群落	タチスズメ/ヒエ群落	1031
黄	単子葉草本群落	チガヤ群落	1042
黄	単子葉草本群落	ジュズダマ群落	1060
黄	単子葉草本群落	ジャヤナギ-アカメヤナギ群落	127
黄	単子葉草本群落	ジャヤナギ-アカメヤナギ群落(低木林)	128
黄	単子葉草本群落	メダケ群落	139
黄	単子葉草本群落	ウス群落	1315
黄	単子葉草本群落	ノイバラ群落	1316
黄	単子葉草本群落	ムクノキ-エノキ群落	1435
黄	単子葉草本群落	植樹林(その他)	2010
黄	単子葉草本群落	スギ-ヒノキ植林	191
黄	単子葉草本群落	畑地(畑地雑草群落)	222
黄	単子葉草本群落	水田	23
黄	単子葉草本群落	人工草地	24
黄	単子葉草本群落	人工裸地	253
黄	単子葉草本群落	橋造物	261
黄	単子葉草本群落	コンクリート橋造物	262
黄	単子葉草本群落	道路	263
黄	単子葉草本群落	開放水面	28

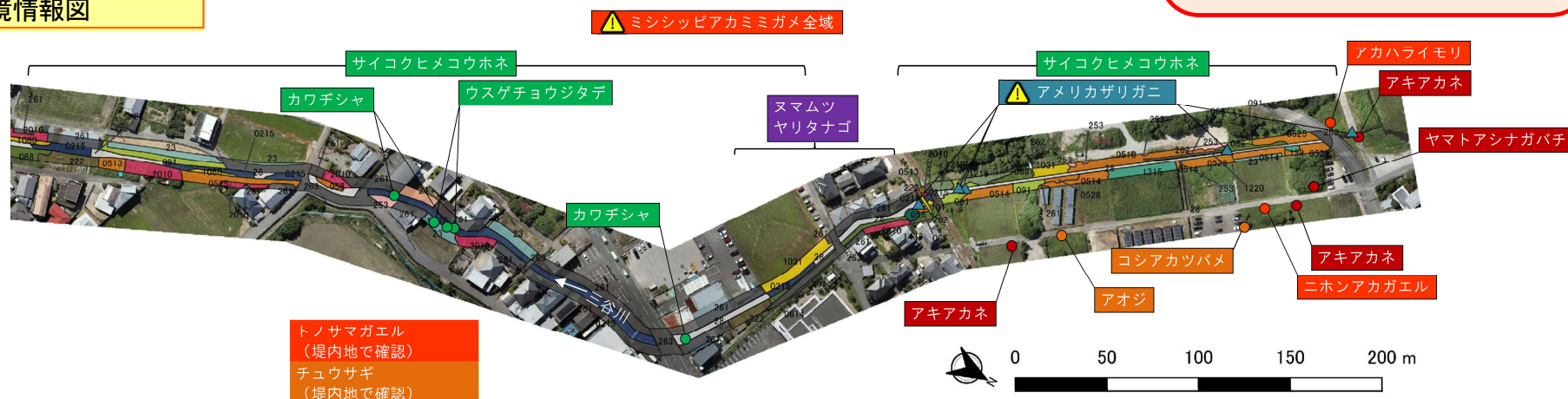
重要種名	国	県
ヤリタナゴ	準	準
ヌマムツ	準	準
ドジョウ	準	II
ミナミメダカ	II	II
クロダカワニナ	準	準
テツホシダ	II	II
サイコクヒメコウホネ	II	II
ウスゲチョウジタデ	準	準
カワチシャ	準	準
チュウサギ	準	準
ケリ	情	情
ミサゴ	準	準
コシアカツバメ	II	II
アオジ	留	留
アカハライモリ	準	準
ニホンアカガエル	II	II
トノサマガエル	準	IB
アキアカネ	II	II
ヤマトアシナガバチ	情	情
特定外来生物名	特定	生態系
アメリカザリガニ	●	緊急
ミシシippiaカミミガメ	●	緊急

凡例
紫枠 魚類
青枠 底生動物
緑枠 植物
橙枠 鳥類
朱枠 両生類・爬虫類・哺乳類
赤枠 陸上昆虫類
○ 重要確認地点
△ 特定外来生物確認地点
凡例(重要種)
国 環境省レッドリスト(2020)
県 徳島県レッドリスト(各最新改訂版)
IA 絶滅危惧ⅠA類
IB 絶滅危惧ⅠB類
II 絶滅危惧Ⅱ類
準 準絶滅危惧
情 情報不足
留 留意
凡例(特定外来生物)
特定 特定外来生物
生態系 生態系被害防止外来種
緊急 緊急対策外来種

- 河道内には、ヨシ群落、オギ群落、ヒメガマ群落など河川下流域に典型的にみられる抽水植物群落広がるほか、宅地間を流れる水深の浅い流れの緩やかな水路には、重要種であるサイコクヒメコウホネ、ウスゲチョウジタデなどが生育している。
- JR橋下流の比較的水深が深く、植生が繁茂している箇所にはヌマムツやヤリタナゴが滞留している。
- 上流端付近の水田や畑地周辺にはアキアカネやヤマトアシナガバチなどの重要種が確認されている。
- 藪や宅地周辺にはアオジやコシアカツバメが営巣しており、越冬地や繁殖地として機能していると考えられる。
- 川沿いの水田跡地等の湿性環境にはアカハライモリやニホンアカガエルなどが確認されている。
- 特定外来生物のミシシippアカミミガメは三谷川全域で確認されている。

「河川環境保全のため、
必要に応じて調査を実施」

三谷川上流の環境情報図



サイコクヒメコウホネ



アカハライモリ



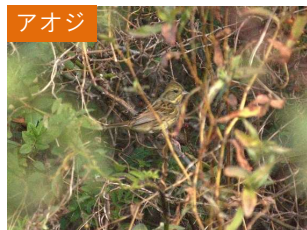
ニホンアカガエル



コシアカツバメ



アオジ



ヌマムツ



色	基本分類	群落名	表示コード	重要種名	国	県	凡例
青	浮葉植物群落	サイコクヒメコウホネ群落	0215	ヤリタナゴ	準	準	紫枠・・・魚類
黄	一年生草本群落	ミソバ群落	0558	ヌマムツ	準	準	青枠・・・底生動物
黄		オオイタダキ・オオクサキ群落	0510	ドジョウ	準	II	緑枠・・・植物
黄		コセンダングサ群落	0513	ミナミメダカ	II	II	橙枠・・・鳥類
黄		メシバエ・ノコギリ群落	0514	クロダカウナ	準	準	朱枠・・・両生類・爬虫類・哺乳類
黄	多年生広葉草本群落	カナムグラ群落	0525	サイコクヒメコウホネ	II	II	赤枠・・・陸上昆虫類
黄		ヨモギ・マドハギ群落	064	ウスゲチョウジタデ	準	準	○・・・重要種確認地点
黄		カラムシ群落	066	ツツホシダ	II	II	△・・・特定外来生物確認地点
黄		セイタカアワダチソウ群落	068				
黄		カゼクサ・オオハコ群落	0614				
黄	単子葉草本群落	ヨシ群落	071	カワデシヤ	準	準	
黄	単子葉草本群落	オギ群落	091	チュウサギ	準	準	
黄	単子葉草本群落	ウキカサ・マコモ群落	101	ケリ	情	準	
黄	単子葉草本群落	その他の単子葉草本群落	104	ミソコ	準	準	
黄		ヒメガマ群落	1031	コシアカツバメ	II	II	
黄		タチスズメ・ヒエ群落	1031	アオジ	留	留	
黄		チガヤ群落	1042	アカハライモリ	準	準	
黄		ジュズダマ群落	1060	ニホンアカガエル	II	II	
黄	ヤナギ高木林	ジャヤナギ・アカメヤナギ群落	127	トノサマガエル	準	IB	
黄		ジャヤナギ・アカメヤナギ群落(低木林)	128	アキアカネ	II	II	
黄	その他の低木林	メダケ群落	139	ヤマトアシナガバチ	情	情	
黄		クズ群落	1315	特定外来生物名	特定	生胞系	
黄		ノイバラ群落	1316	アメリカザリガニ	●	緊急	
黄	落葉広葉樹林	ムク・キ・エノキ群落	1435	ミシシippアカミミガメ	●	緊急	
黄	雑木林(その他)	雑木群落	2010				
黄	雑木地(スギ・セノキ)	スギ・セノキ群落	191				
黄	畑地	畑地(雑草群落)	222				
黄	水田	水田	23				
黄	人工草地	人工草地	24				
黄	グラウンド	グラウンド	253				
黄	人工構造物	構造物	261				
黄		コンクリート構造物	262				
黄		道路	263				
黄	開放水面	開放水面	28				

2. 打樋川水系河川整備計画の策定

- 平成9年の河川法改正を受け、既往計画における基本高水のピーク流量を検証した結果、既往計画の妥当性を確認。
- 打樋川の基準地点答島で $120\text{m}^3/\text{s}$ 、主要地点大湊で $85\text{m}^3/\text{s}$ 、米島で $40\text{m}^3/\text{s}$ とし、平成16年4月に「二級河川打樋川水系 河川整備基本方針」を策定。

河川整備基本方針（平成16年）

基本高水は、10年に1回程度の降雨で発生する洪水を対象とし、水門から約180m上流の基準地点「答島」において $120\text{m}^3/\text{s}$ とし、これを河道へ配分する。

表-1 基本高水のピーク流量等の一覧表単位

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	ダム等による調節流量	河道への配分流量
うてびがわ打樋川	こたじま答島	120	なし	120

単位： m^3/s

計画高水流量は、基準地点「答島」において $120\text{m}^3/\text{s}$ とする。

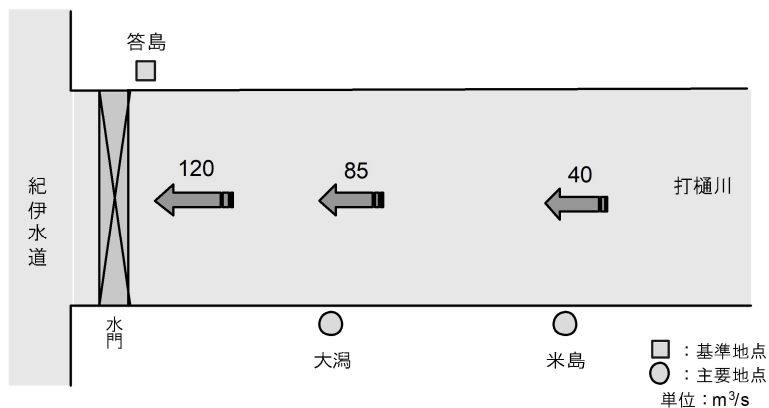
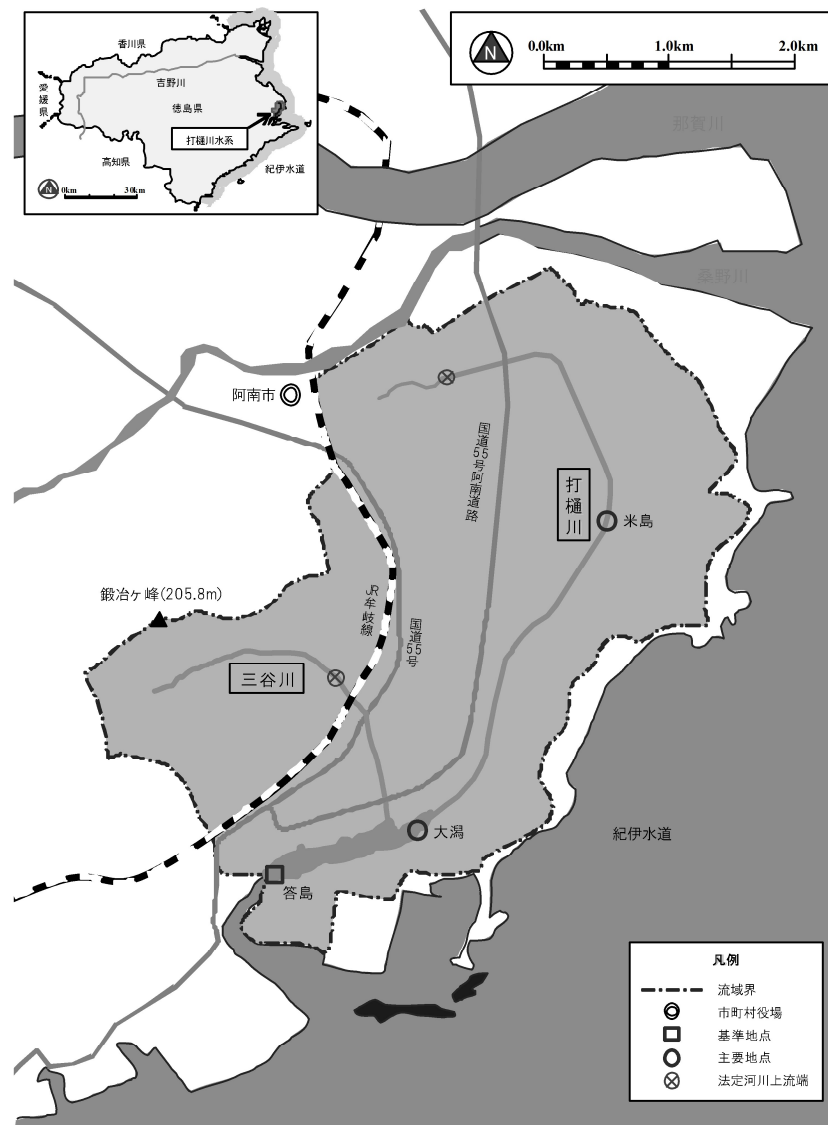


図-1 計画高水流量配分図



<三谷川>

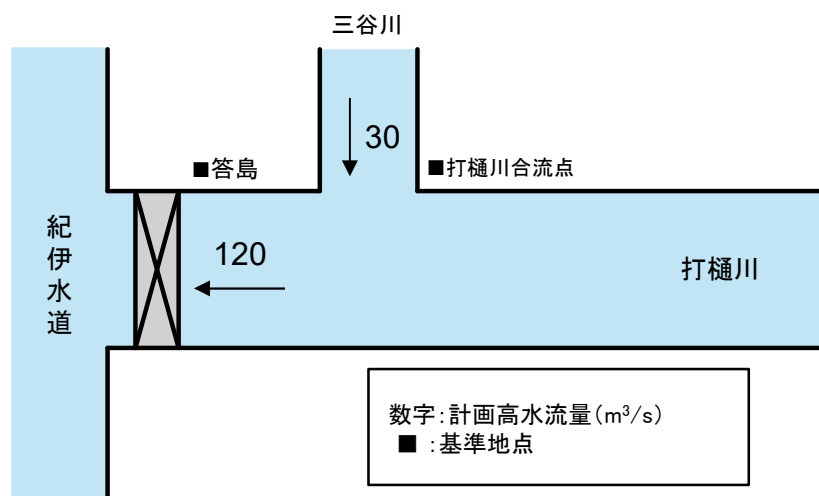
【対象期間】

- ・ 概ね 30 年

【対象流量】

- ・ 三谷川 : $V = 30 \text{ m}^3/\text{s}$
確率規模 1 / 10
※ 打樋川と同規模

【流量配分図】

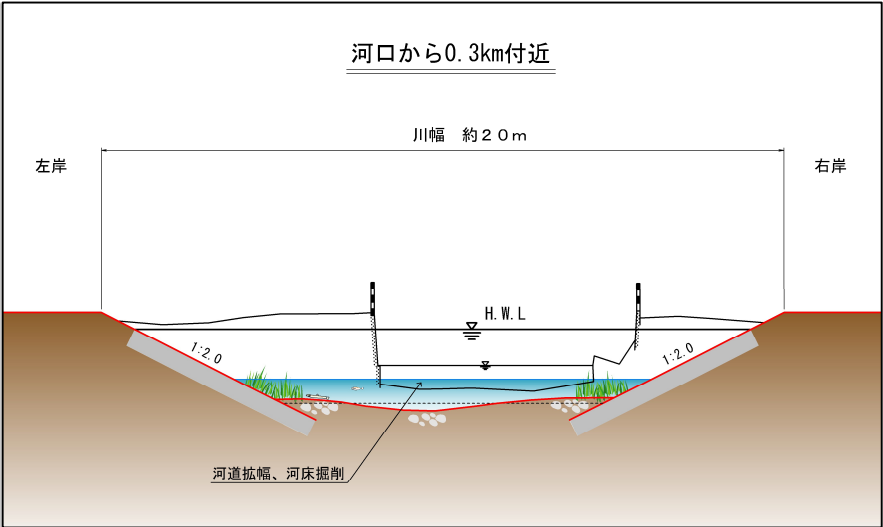
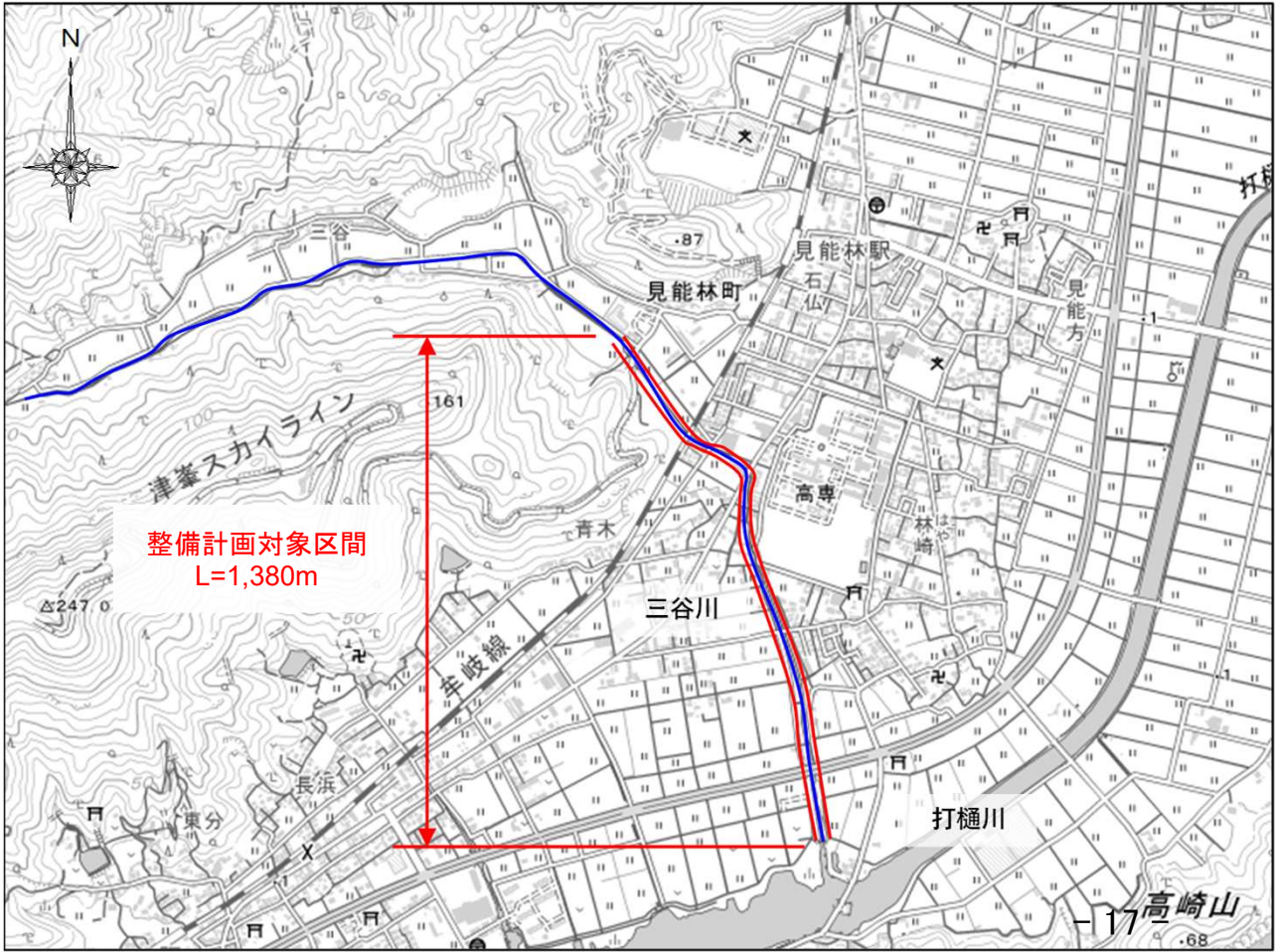


<三谷川>

【河川工事の種類及び施工の場所】

河川名	実施区間	実施延長	実施内容
三谷川	打樋川合流点～県管理区間上流端	1,380m	堤防整備、輪中堤、河道掘削等

【実施平面図・横断図】



【流域対策】

- ・ 特定都市河川指定に向けた調査検討
- ・ 流出抑制対策（田んぼダム）
- ・ 遊水機能の確保

「流域全体で洪水の負担低減を図るための取組を推進」

1. 方針

○打樋川

- ・河川改修が完了していることから、整備計画の位置付けなし

○三谷川

- ・目標流量、整備メニューに加え、流域全体での流域治水対策を位置付け

2. 流量及び対策

○三谷川

- ・計画規模：1／10確率（本川と同規模）
- ・目標流量：打樋川合流点 30m³/s
- ・整備区間：L＝1, 380m（打樋川合流点～JR上流）
- ・整備メニュー：河川改修（護岸工一式、掘削一式、橋梁3橋、樋門1箇所等）
流出抑制対策（田んぼダム）、雨水貯留施設等を想定

3. 今後のスケジュール

令和8年 3月 川づくり委員会①（素案公表）

5月 川づくり委員会②（原案公表）
パブリックコメントによる意見募集
川づくり委員会③（案公表）
意見照会（関係機関）
河川整備計画策定